

5

ざっくり 聖書入門

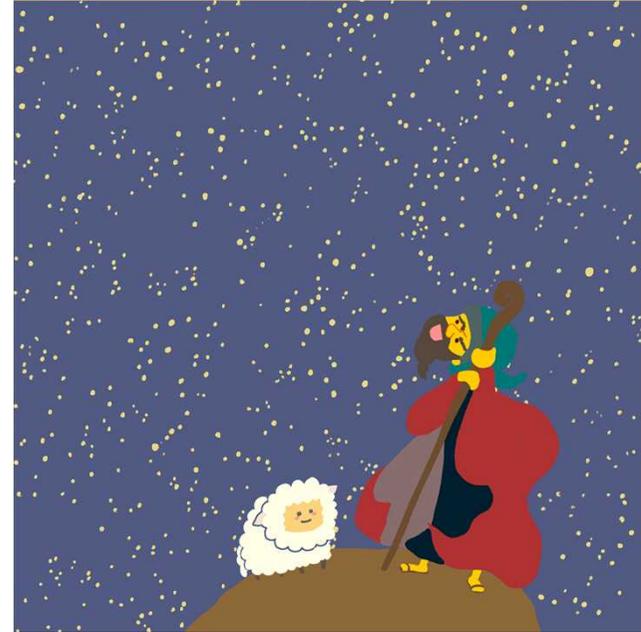
「モーセ・前編」

出エジプト記



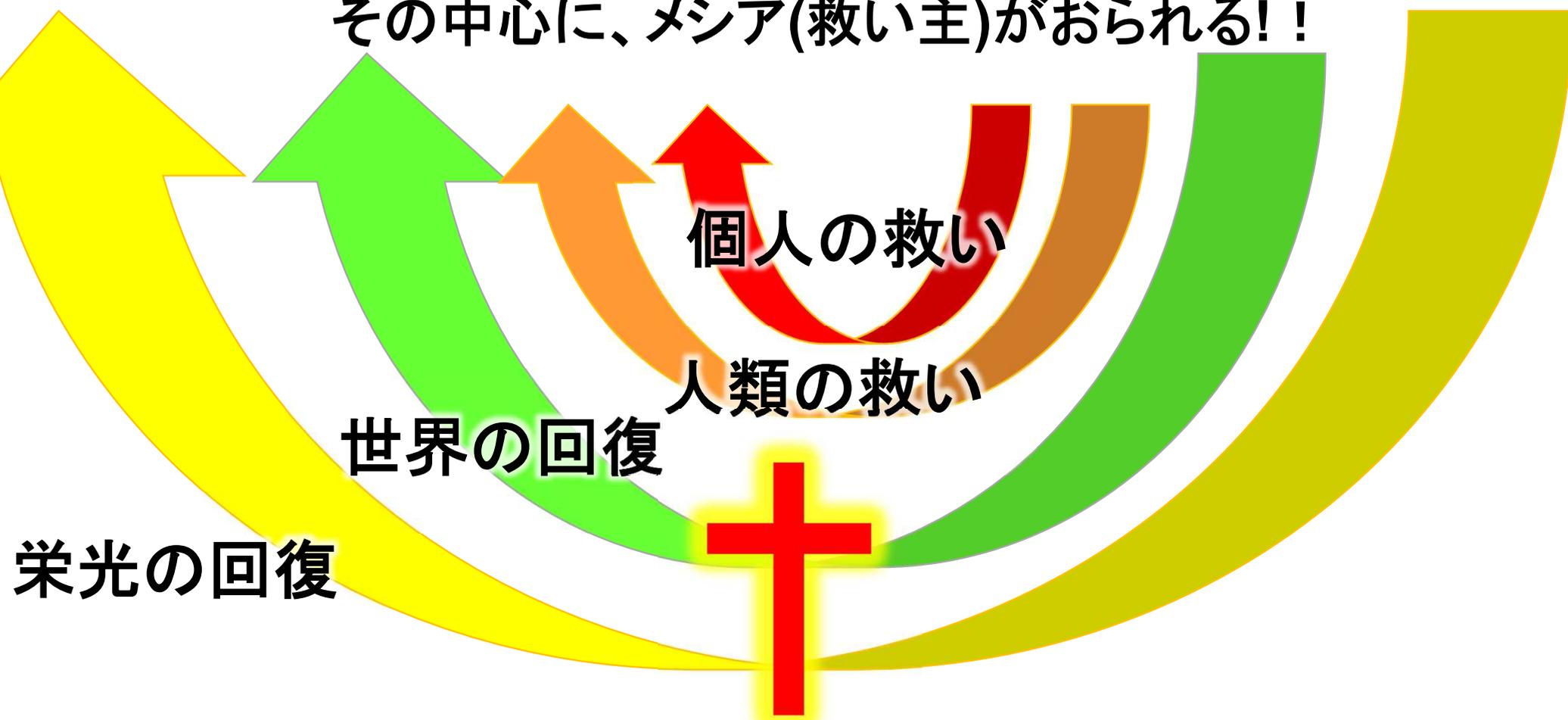


ふりかえり



聖書の最大のテーマは、「神の栄光の回復」

世界に神の栄光が回復される時、すべて回復される。
その中心に、メシア(救い主)がおられる!!





謎解きのカギは？

聖書は、「メシア(救い主)」を
めぐるミステリー!!

メシアとは？

誰か？

いつ現れるのか？

どこで生まれるのか？

何をされるのか？

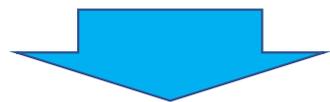
神の約束 = 契約

【創世記11章までに明らかになったこと】

①人類は、たった一つの約束も守れなかった。



②人類は、**良心**によって、世界を正しく治めることはできなかった。



③人類は、**組織**によっても、世界を正しく治められなかった。

人間は、自分の努力で、神との平和を作り出すことはできない!!
人類の希望は、神が約束された女の子孫(メシア)にある!!

神の計画が、いよいよ、アブラハムから動き出す!!

【アブラハム契約とは？】

■聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

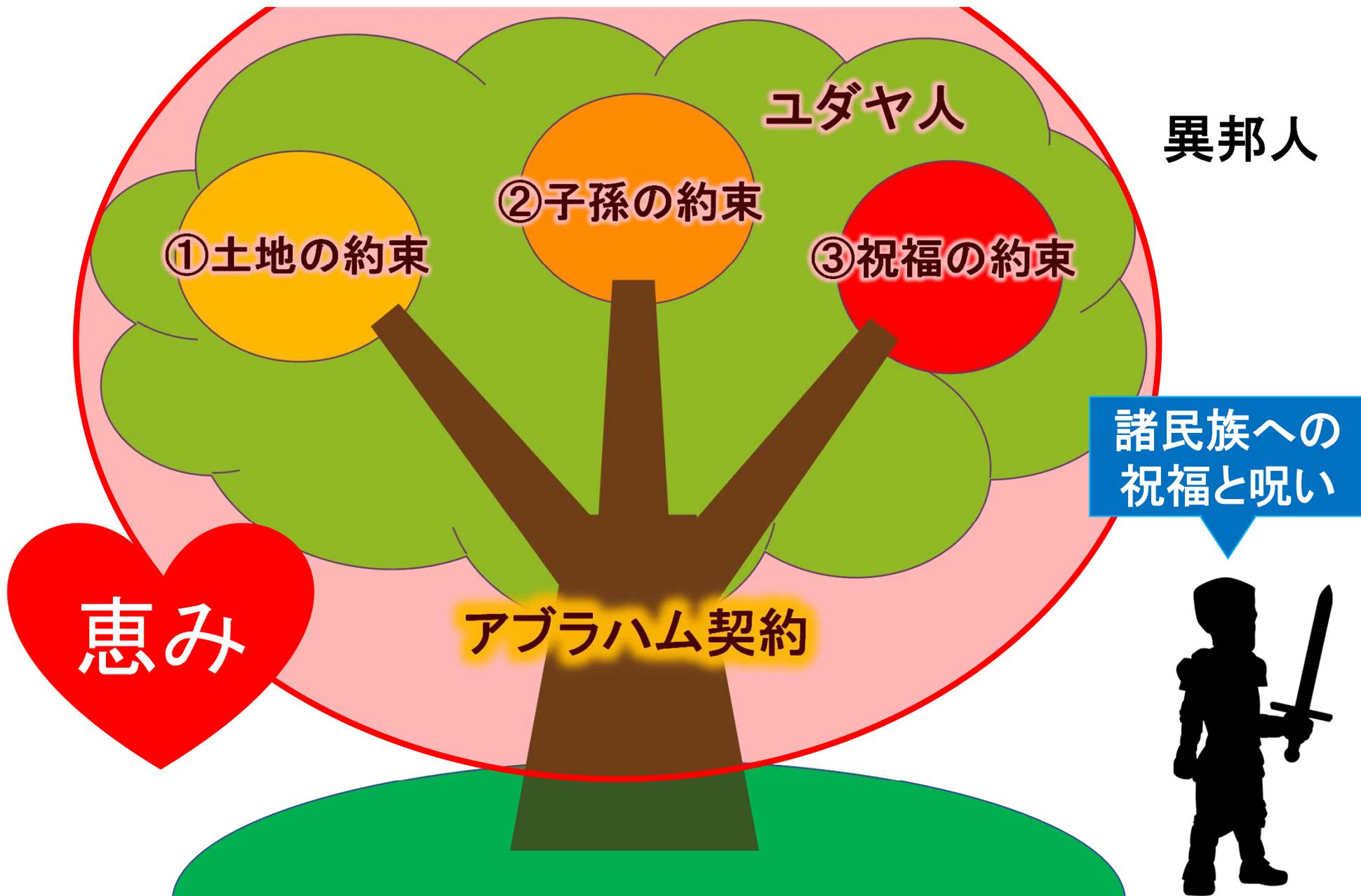
※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

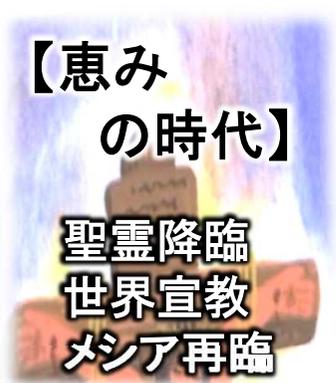
※しるし ...割礼

神の契約が、
アブラハムと子孫を
守り、導く



【アブラハム契約】





【恵みの時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの
塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル
王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

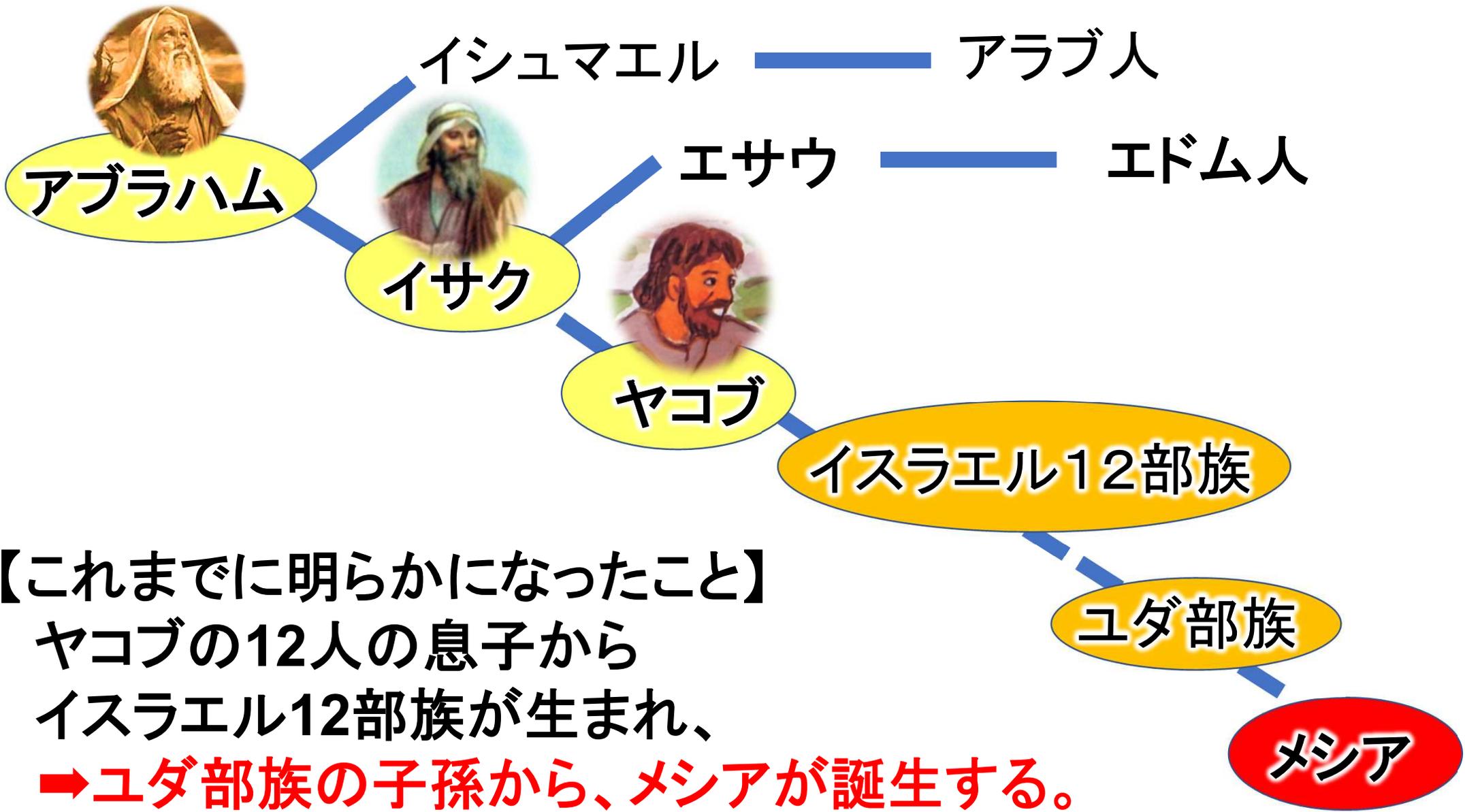
⑧新しい契約

神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

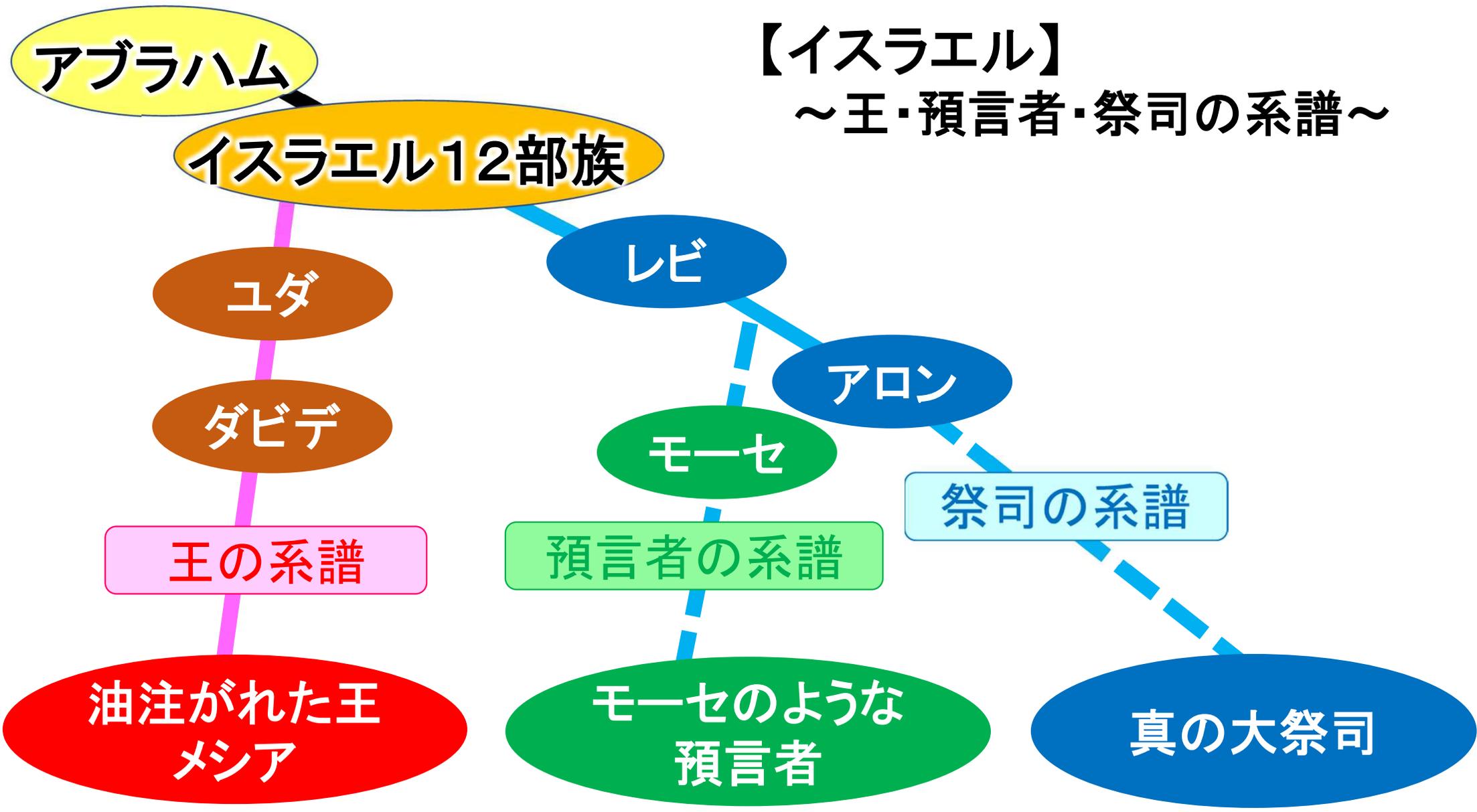


【これまでに明らかになったこと】

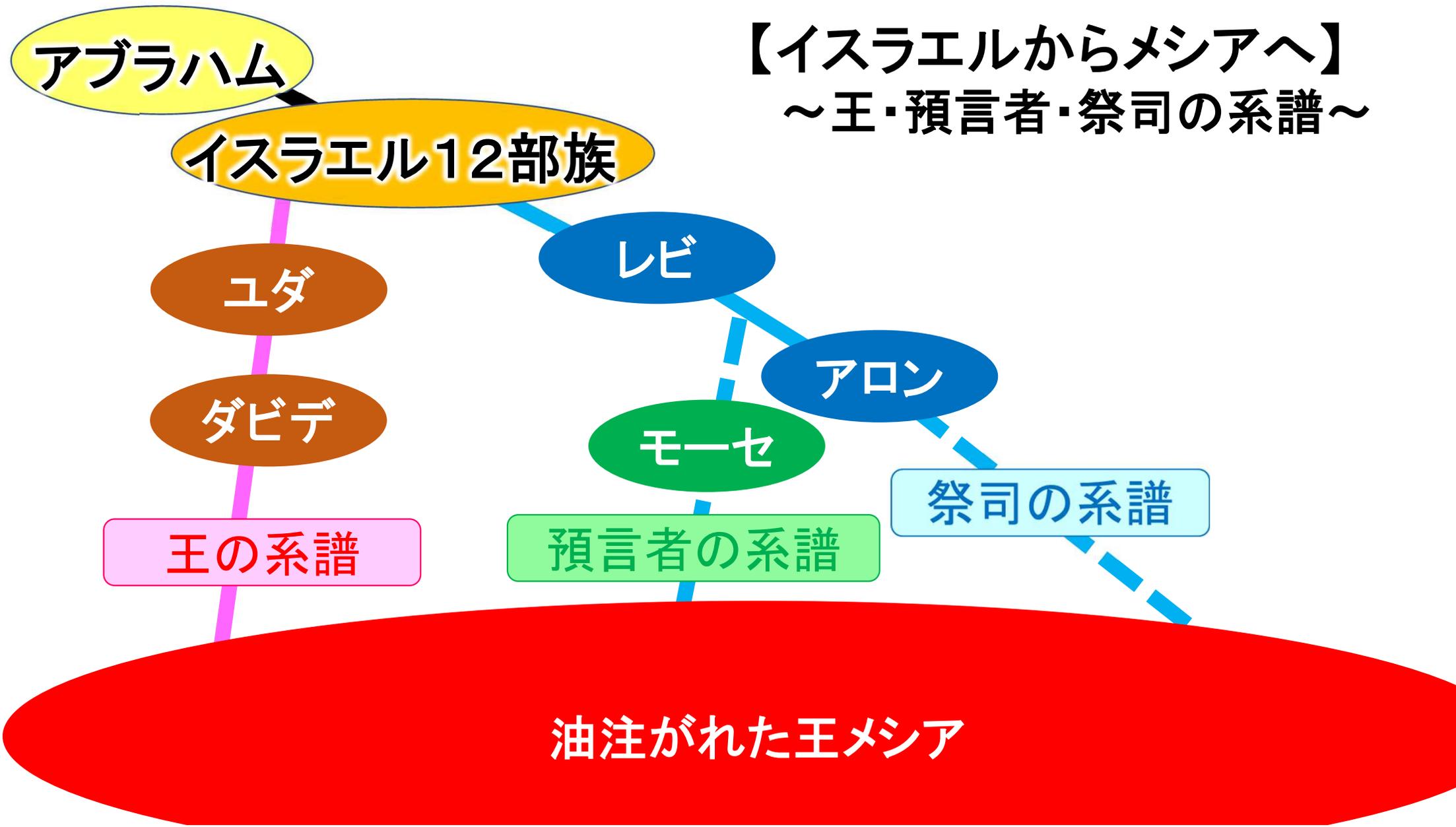
ヤコブの12人の息子から
イスラエル12部族が生まれ、

➡ユダ部族の子孫から、メシアが誕生する。

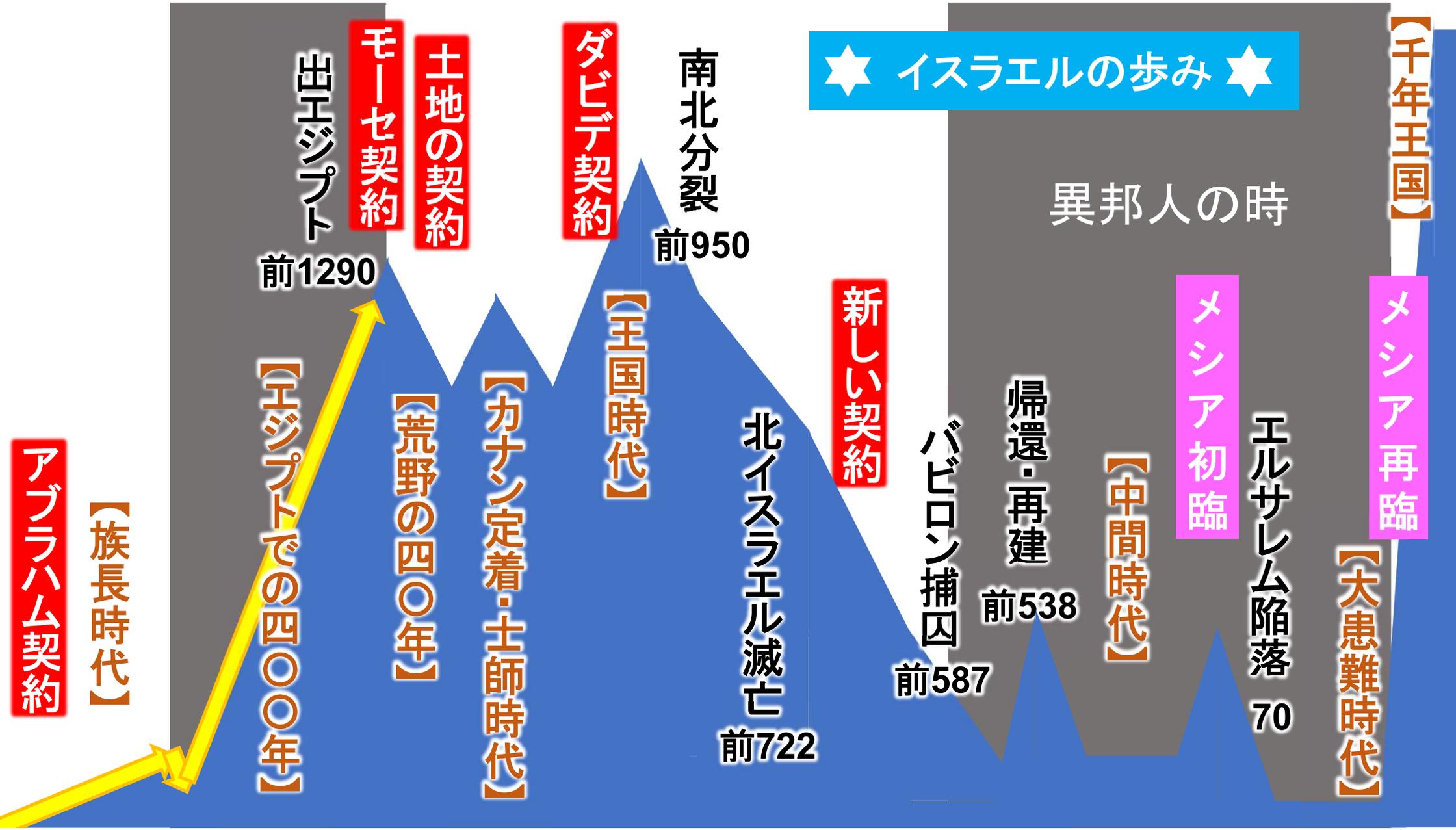
【イスラエル】
～王・預言者・祭司の系譜～



【イスラエルからメシアへ】
～王・預言者・祭司の系譜～



★ イスラエルの歩み ★



異邦人の時

アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

【王国時代】

北イスラエル滅亡

バビロン捕囚

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

0～40歳

40～80歳

80～120歳

奴隸の子として誕生

王の子として成長

逃亡者に
40才

ミディアン人の娘ツッポラと結婚

荒野での羊飼生活

召命 80才

十の災い

出エジプト

モーセ契約

民の反抗

荒野の四〇年

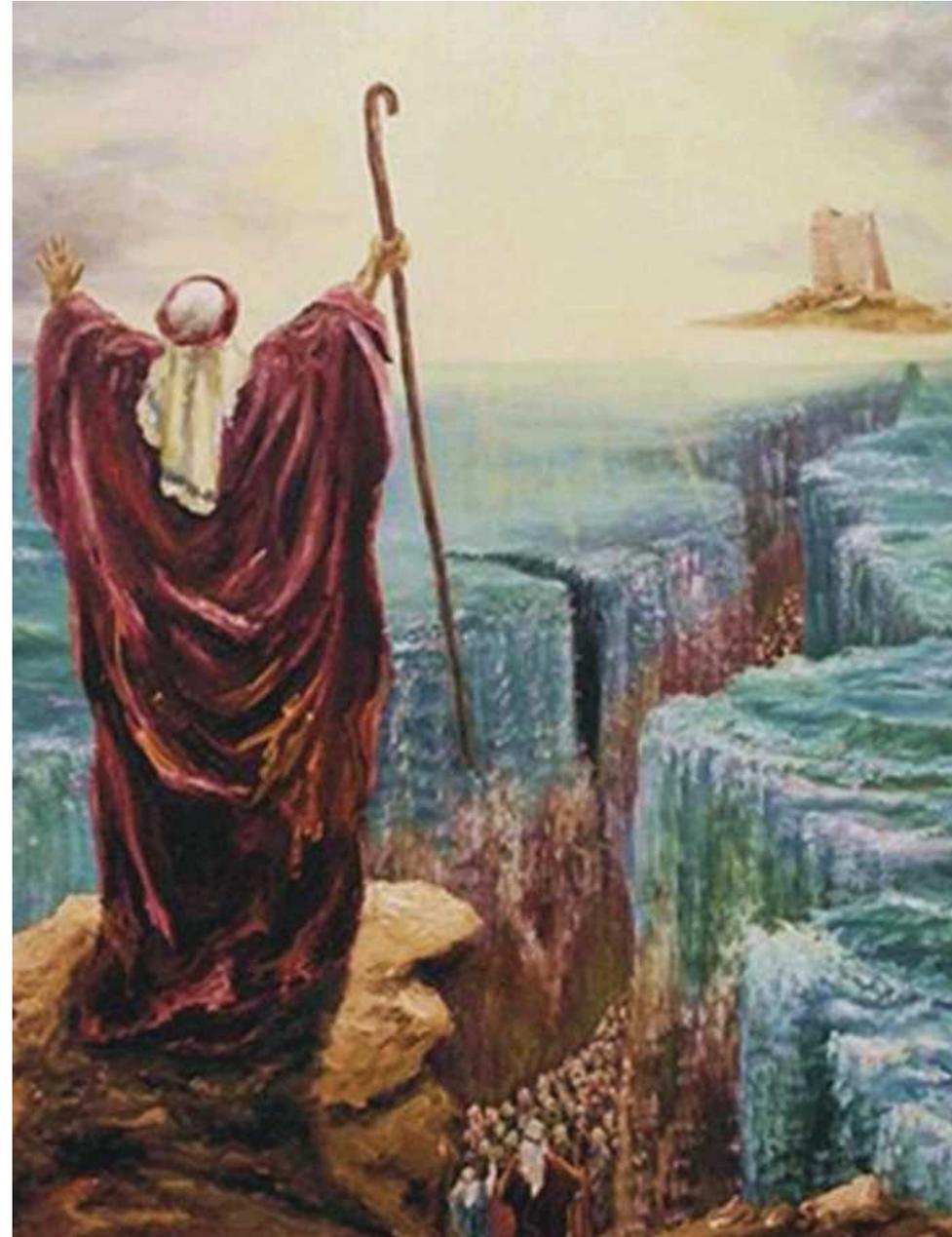
土地の契約

召天

【モーセの生涯】

【今日のアウトライン】

- I. 再び動き出す神の約束
- II. モーセの出生・成長
- III. モーセの召命
- IV. 十の災い
- V. エジプト脱出
- VI. 私たちの出エジプト
信じて歩み出すのが信仰



I. 再び動き出す神の約束

出エジプト記1章



【アブラハムに啓示されていた イスラエルのエジプト行】

「あなたの子孫は、自分たちのものではない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう。

しかし、彼らの仕えるその国民を、わたしがさばき、その後、彼らは多くの財産を持って、そこから出て来るようになる。 創世記15:12～14」



【エジプトへ逃れたイスラエル】

三代目のヤコブは、
カナンを襲った大飢饉を逃れ、
70人の一族を連れ、エジプトに移住した。

【増え広がるイスラエルと迫害】

■ 400年が過ぎた。

■ イスラエルは、奴隷とされながらも、豊かなエジプトの地で増えていた。

■ 一方、増えすぎたイスラエルをエジプト王朝は警戒し、厳しい迫害を行っていった。



【過酷さを増す奴隷労働】

1:13 それでエジプトはイスラエル人に過酷な労働を課し、粘土やれんがの激しい労働や、畑のあらゆる労働など、すべて、彼らに課する過酷な労働で、彼らの生活を苦しめた。

【男子殺害の命令・民族の危機】

1:22 また、パロは自分のすべての民に命じて言った。「生まれた男の子はみな、ナイルに投げ込まなければならない。女の子はみな、生かしておかななければならない。」



Ⅱ. モーセの出生・成長 0～40歳

「モーセ、
パロの王女に拾われ
王子として育つ」



0～40歳

40～80歳

80～120歳

召天

土地の契約

荒野の四〇年

民の反抗

モーセ契約

出エジプト

十の災い

召命 80才

荒野での羊飼生活

ミディアン人の娘ツッポラと結婚

逃亡者に 40才

王の子として成長

奴隷の子として誕生

【モーセの生涯】

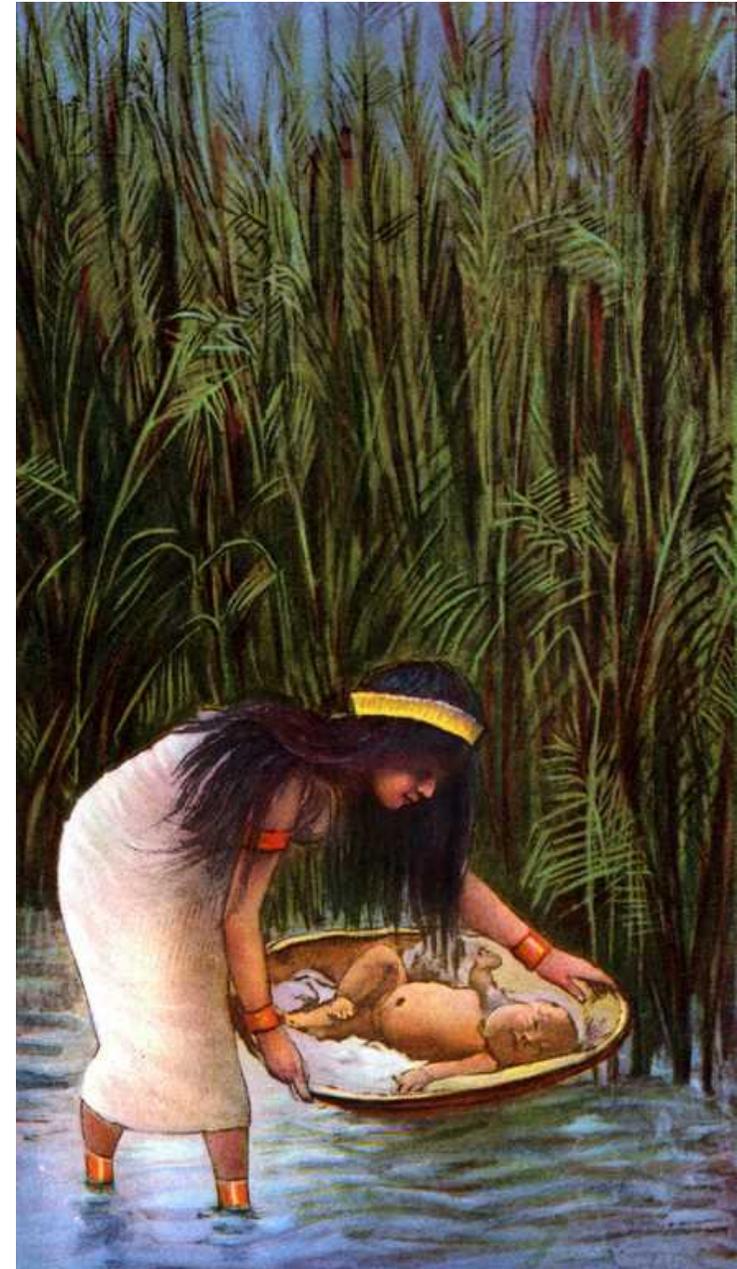
【モーセの誕生】 出 2:1~3

さて、レビの家のひとりの人がレビ人の娘をめとった。女はみごもって、男の子を産んだが、そのかわいい*のを見て、三か月の間その子を隠しておいた。しかしもう隠しきれなくなったので、パピルス製のかご*を手に入れ、それに瀝青と樹脂とを塗って、その子の中に入れ、ナイルの岸の葦の茂みの中に置いた。

* トーブ(美しい) ... その子の美しいの見た(ヘブ11:23)
⇒ 両親は、神の計画の現れを、その子に見た。

* かご(テイバー) = 箱舟も同じ言葉。

■ 箱舟のように、防水加工を施して、浮かべた。



【モーセの成長】 出2:5~10

2:5 パロの娘が水浴びをしようとナイルに降りて来た。...彼女は葦の茂みにかごがあるのを見、取って来させた。

2:6 それをあけると、子どもがいた。なんと、それは男の子で、泣いていた。

2:10 ...その子は王女の息子になった。彼女は、その子をモーセと名づけた。

- 幼い間は、実母が乳母となり、育てた。
 - ➡ イスラエルの民族教育をしっかりと施した。
- その後は、エジプトの王宮で、
 - ➡ 世界最高のリーダー教育を受けた。

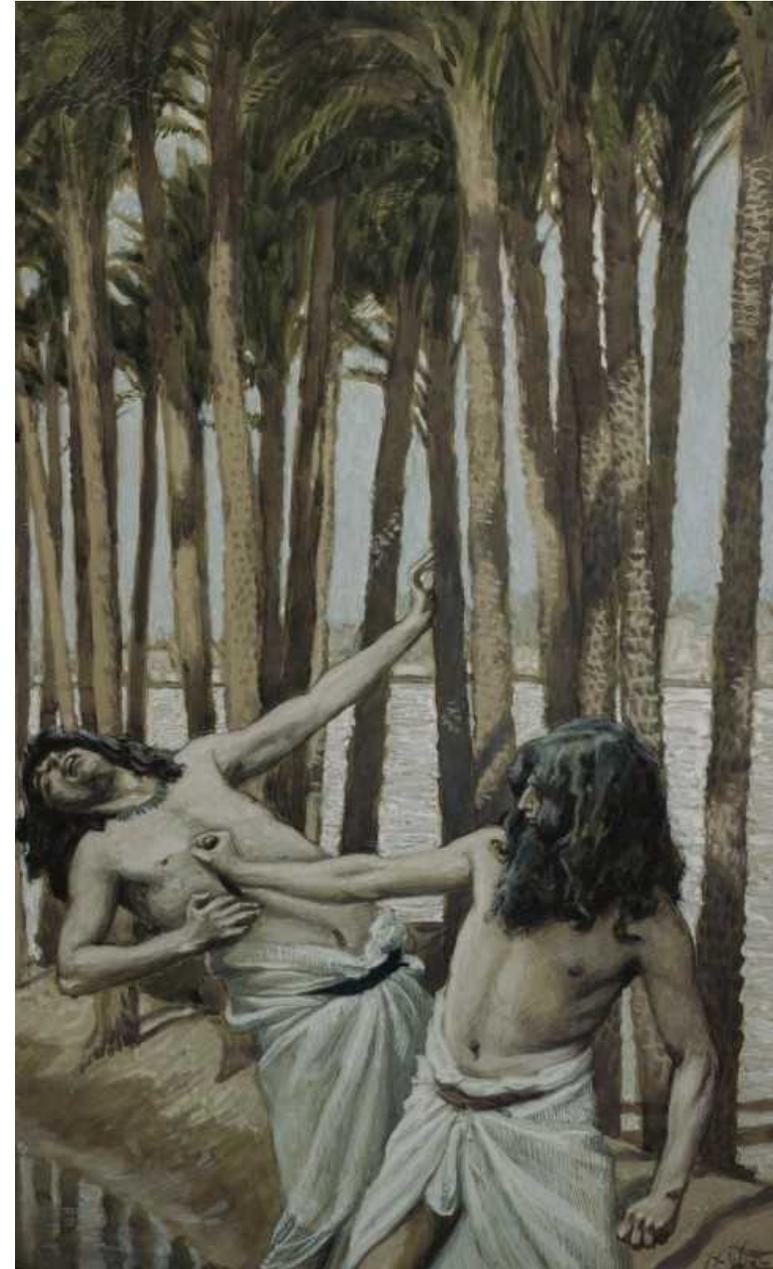


【モーセの殺人】 出2:11～15

■ ある時、同胞がエジプト人に打たれているのを見て、モーセは、相手を殺し、砂の中に隠した。

■ 翌日、同胞同士の争いを仲裁しようとする...。その男は、「だれがあなたを私たちのつかさやさばきつかさにしたのか。あなたはエジプト人を殺したように、私も殺そうと言うのか」と言った。そこでモーセは恐れて、きっとあのことが知れたのだと思った。

■ モーセは、パロに命を狙われる身となり、エジプトを逃れた。モーセ、40歳の時だった。





Ⅲ. モーセの召命 40～80歳

荒野の逃亡生活から、神の召命へ

0～40歳

40～80歳

80～120歳

奴隸の子として誕生

王の子として成長

逃亡者に
40才

ミディアン人の娘チツポラと結婚

荒野での羊飼生活

召命 80才

十の災い

出エジプト

モーセ契約

民の反抗

荒野の四〇年

土地の契約

召天

【モーセの生涯】

【モーセの逃走経路】 出3章

【エジプト】エジプト

ゴシェン■

【カナン】

【シナイ半島】

モーセは、
ミデヤン人(アブラハムの子孫)の祭司、
レウエルの娘と結婚。40~80歳まで、
40年間、荒野で羊飼いと暮らした。
➡後の荒野の旅の実施訓練に!!

ミデヤン

▲シナイ山

【生きていた神の契約】 出2:22～25

それから何年もたって、エジプトの王は死んだ。イスラエル人は労役にうめき、わめいた。彼らの労役の叫びは神に届いた。

神は彼らの嘆きを聞かれ、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされた。

神はイスラエル人をご覧になった。
神はみこころを留められた。

- モーセは、荒野暮らしの中で生まれた子に、「ゲルシヨム(寄留者)」と名付けた。
- 王宮での暮らしも、はるか昔。
しかし、神はイスラエルを覚えておられた。

神は、決して、
ご自分の約束の民を
忘れることはない!!



【ホレブにて】 出3:1~3

モーセは、ミデヤンの祭司で彼のしゅうと、イテロ(レウエル)の羊を飼っていた。彼はその群れを荒野の西側に追って行き、神の山ホレブ*にやって来た。

すると【主】の使い*が彼に、現れた。柴の中の火の炎の中であった。よく見ると、火で燃えていたのに柴は焼け尽きなかった。

* ホレブ山脈 ...シナイ山は、その一つ。

* 主の使い ...第二位格の神、受肉前のキリスト。

■ 燃えても燃え尽きない柴は、イスラエルの象徴。

80歳のモーセに、主は、ご自身の栄光の内から語りかけられる



【モーセの召命】 出3:4~6

3:4 【主】は彼が横切って見に来るのをご覧になった。神は柴の中から彼を呼び、「モーセ、モーセ」と仰せられた。

彼は「はい。ここにおります」と答えた。

3:5 神は仰せられた…。

「わたしは、あなたの父の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。」

- 神は、「**アブラハム契約**」のゆえに、イスラエルを見捨てておられない!!



【神の命令・モーセの使命】 出3:7,10

「わたしは、エジプトにいるわたしの民の悩みを確かに見、追い使う者の前の彼らの叫びを聞いた。わたしは彼らの痛みを知っている。

...今、行け。わたしはあなたをパロのもとに遣わそう。わたしの民イスラエル人をエジプトから連れ出せ。」

■ 今、神の時が動き出す。

■ モーセに与えられた使命とは、

- ①エジプトのパロのもとに遣わされ、
- ②イスラエルをエジプトから連れ出すこと。



【モーセの答え・神の約束】 出3:11～12

3:11 モーセは神に申し上げた。「私はいったい何者なのでしょう。パロのもとに行ってイスラエル人をエジプトから連れ出さなければならないとは。」

3:12 神は仰せられた。「わたしはあなたとともにいる。これがあなたのためのしるしである。わたしがあなたを遣わすのだ。」

■ 80歳の羊飼いの自分に、一体何ができるのか？

■ 神の約束：「わたしはあなたとともにいる」

イエスの呼称の一つが ➡ インマヌエル
「神がわたしと共にいる」



【神の名は？】 出3:13～

■ モーセは、民に告げるべき、「神の名」を求めた。

➡「名」とは、本質。知識以上のものを求めたモーセ

■ 3:14 神はモーセに仰せられた。

「わたしは、『わたしはある』という者である。

➡イスラエルの神は、あらゆる存在の根源。

何にもよらず、始まりも終わりもない唯一無二の方

■ 「アブラハムの生まれる前から、『わたしはある』」

※イエスの神性宣言 (ヨハネ8:58)



【言い訳するモーセ】 出4:10~12

■ モーセは、イスラエルを説得する自信がない、自分は口べただと、神の召命を再三断った。

■ 神は、忍耐強くモーセを導き、民を説得するために、奇跡を行う権威を与え、代弁者として、兄アロンを共に派遣された。

■ 信者の派遣は、こどものおつかいのようなもの。主がすべて算段を整えられたところへ遣わされ、主に言いつけられたことを告げるだけ!!



モーセは、主の
はじめてのおつかいへ!!

IV.十の災い (7～11章)

～裁かれるエジプトの偶像の神々～

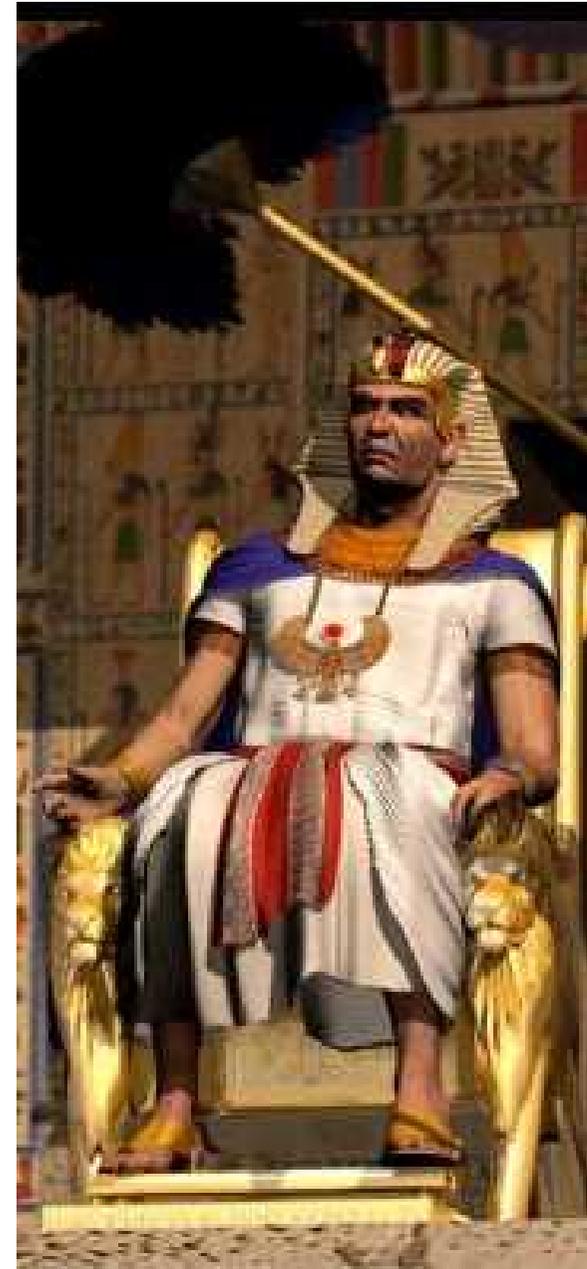


【パロに申し出るモーセ】 出5:1~2

モーセとアロンはパロのところに行き、そして言った。
「イスラエルの神、【主】がこう仰せられます。『わたしの民を行かせ、荒野でわたしのために祭りをさせよ。』」

5:2 パロは答えた。「【主】とはいったい何者か。私とその声を聞いてイスラエルを行かせなければならないというのは。
私は【主】を知らない。イスラエルを行かせはしない。」

- 主に命じられた通りに、パロに告げたモーセ。
- パロは、とりつくしまなく、拒んだ。
- パロは、エジプトの神々の最高神。
「ヤハウエなど、名も知らない奴隷の神に従う必要はない」



【パロに訴えた結果】 出5:11~15

■ 怒ったパロは、イスラエルの労役を重くし、
同胞は、モーセのせいだと非難した。

■ モーセは、神に泣きついた。

■ 神は、四つのことをモーセに宣言された。

① わたしが、ヤハウェである。(唯一の神である)

② わたしがイスラエルを奴隷から救い出し、贖う。

③ わたしが、あなたがたをわたしの民とする。

(わたしが、あなたがたの神だと、あなたがたは知る)

④ わたしが約束の土地を与える。

宣言の土台はやはり、アブラハム契約!!



【再び立ち上がるモーセ】 出7:6～

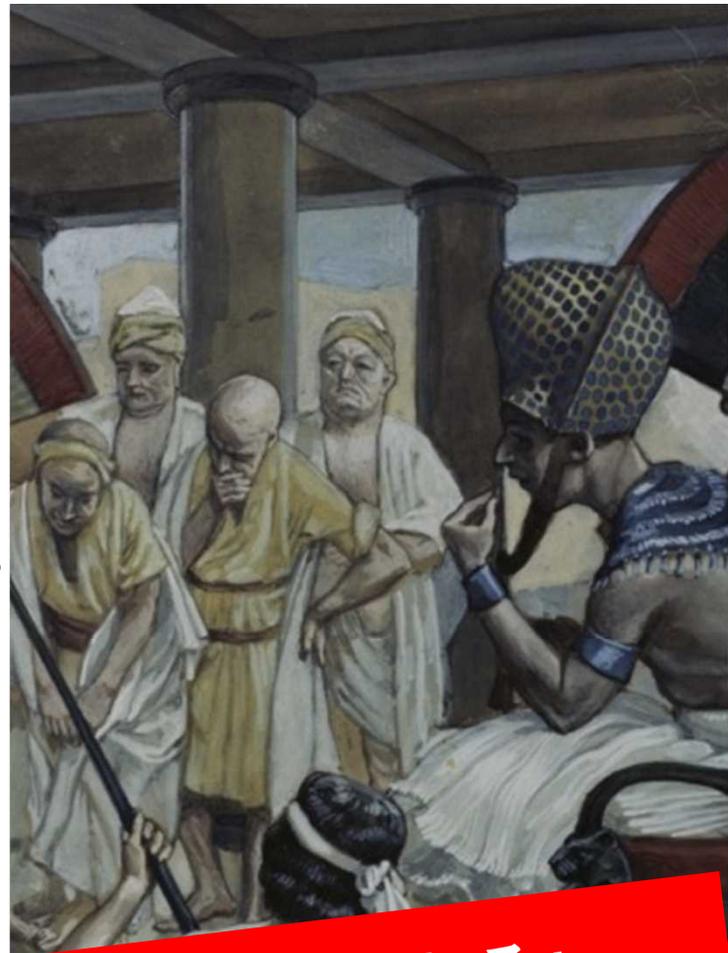
「そこでモーセとアロンは、
【主】が彼らに命じられたとおりにした。」

- 自分の期待から、神の計画へ視点を変えた。
➡ 信じて、踏み出した結果として、体験する。
先に体験や実感を求めると、苦しくなる。

- 聖書から、私たちは何を学ぶのか？

“神の約束の確かさ。”

- ➡ 人がどうあろうとも、
神の計画は着実に実行されていく!!

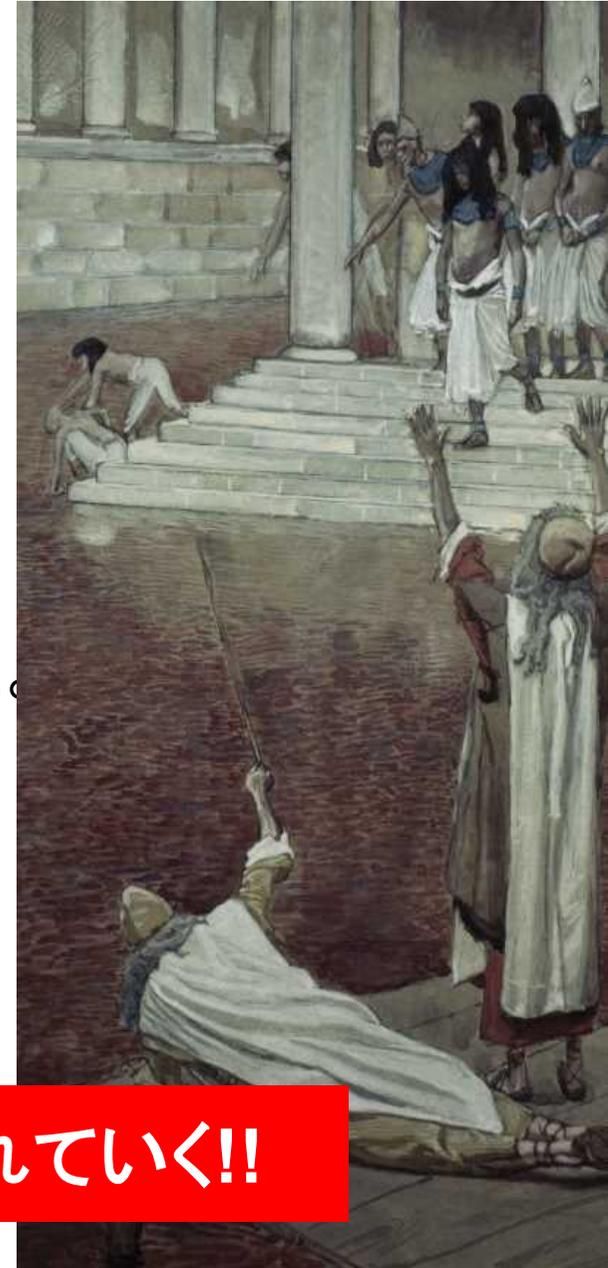


「わたしはある」
神の名・本質を
知らされていくモーセ!!

【パロとの対決】 出7:8~25

- パロの前で、モーセが杖を投げると、蛇になった。
⇒パロは呪法師に命じ、同じことをさせた。
しかし、アロンの杖が、彼らの杖を飲み込んだ。
- パロの心はかたくなになり、聞き入れなかった。
- 翌朝、モーセはパロの前で、ナイルの水を杖で打った。
ナイルの水は血に変わり、飲めなくなった。
⇒呪法師たちも同じことをした。
- パロの心はかたくなに。7日間、この状況は続いた。

これ以降、エジプトに神の裁きが次々と下されていく!!



【災いにすら示された神の秩序】 3回×3セット +1(最後の災い) =10

- ①血
 - ②かえる
 - ③ぶよ(害虫)
- (呪法師も模倣)

- ・エジプト全土
- ・煩わしいもの
- ・アロンの手

- ④あぶ(昆虫)
- ⑤家畜の疫病
- ⑥腫瘍

- ・エジプト人のみ
- ・苦痛なもの
- ・神の手

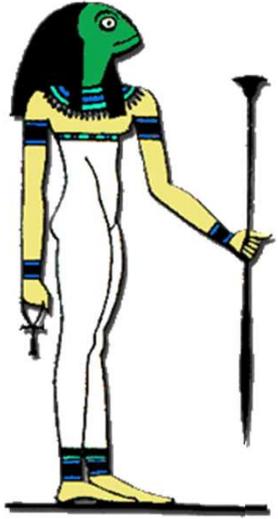
- ⑦雹(ひょう)
- ⑧いなご
- ⑨暗闇
- ⑩初子の死

- ・エジプト人のみ
- ・悲痛なもの
- ・モーセの手

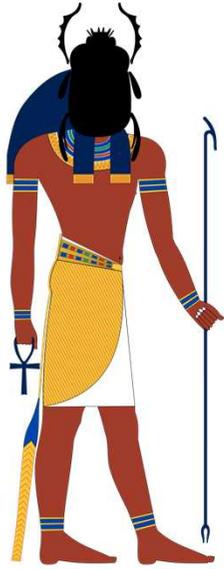
★各セットのパターン★

- ①モーセが朝、パロの前に立つ
 - ・【警告あり】
- ②モーセがパロの前に立つ(時間は不明)
 - ・【警告あり】
- ③モーセはパロの前に立たない。
 - ・【警告なし】

【十の災いで裁かれたのは、エジプトの偶像の神々】



ヘクト(カエル神)



ケプリ
(フンコロガシ神)



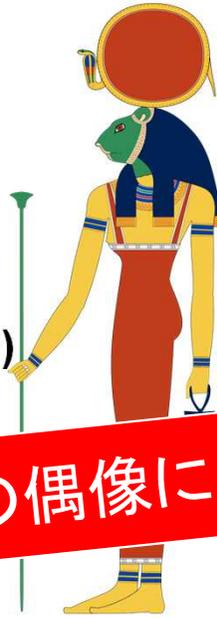
セラピス
(癒やしの神)



クアトウテット



イシス(豊穰神)



セクメット
(疫病の神)



シュー
(天空神)



ラ(太陽神)

パロが頼る、これらの偶像には、何の力もないことが明らかに!!

【偶像礼拝とは？】

■ エジプトには、数々の神々がいた。その頂点がパロ。

■ **偶像** → 自然を観察して、人間が作り出したもの。

※ 人間からみた、世界の解釈 ⇒ 神話

※ 偶像 = アイドル ... 自分に都合のよい存在



■ 偶像礼拝の本質は、人間中心、自己中心。

■ そして、罪の本質は、自分中心。

十の災いは、偶像礼拝という
人の罪の本質を教えるもの!!

★ 究極の偶像礼拝は？

⇒ 自分自身を神とすること。

最後の災いと過越

出エジプト記12～13章



【過越の命令】 出12:22～23

ヒソプの一束を取って、鉢の中の血に浸し、その鉢の中の血をかもいと二本の門柱につけなさい。朝まで、だれも家の戸口から外に出てはならない。

【主】がエジプトを打つために行き巡られ、かもいと二本の門柱にある血をご覧になれば、【主】はその戸口を過ぎ越され、滅ぼす者があなたがたの家に入って、打つことがないようにされる。

■最後の災いを逃れる方法が、主の過越。

羊を屠り、その血を家の入り口に塗る。

➡後々まで、「**過越祭**」として記念される!!



【過越の祭り】 出12章

- ① 傷のない雄の羊 (orやぎ) を用意する
- ② 4日間吟味した後、ほふる
- ③ 血をとって、門柱と かもいに塗る
- ④ 重要な部分は、焼いて神にささげる
- ⑤ 立ったまま食べる
- ⑥ パンは、パン種を入れないで焼く

「傷がない犠牲の羊」、「種のないパン」

➡ “罪なきキリストの贖いの死” を現す影。

子羊の血がイスラエルを贖う!!

来たるべきメシアの型



イスラエルの祭りとメシアの生涯

	祭りの名称	レビ記	月	日	太陽暦	メシアの生涯
春の祭り	①過越の祭り	23:5	第一の月 (ニサン)	14日	3~4月	受難
	②種なしパンの祭り (除酵祭)	23:6~8	第一の月	15~21日	3~4月	贖罪
	③初穂の祭り	23:10~14	第一の月	除酵祭の 安息日翌日	3~4月	復活
	④五旬節の祭り (ペンテコステ)	23:15~21	第三の月 (シワン)	初穂祭の 50日後	5~6月	聖霊降臨
夏期	中間期	23:22				世界宣教 (教会時代)
秋の祭り	⑤ラツパの祭り	23:24~25	第七の月 (ティシュリ)	第一日目 (新月の日)	9~10月	携挙
	⑥贖罪の日 (ヨムキプール)	23:27~32	第七の月	10日	9~10月	大艱難時代
	⑦仮庵の祭り	23:34~43	第七の月	15日	9~10月	千年王国

【最後の災いが降る】 出12:29～31

12:29 真夜中になって、【主】はエジプトの地のすべての初子を、王座に着くパロの初子から、地下牢にいる捕虜の初子に至るまで、また、すべての家畜の初子をも打たれた。

12:30 それで、その夜、パロやその家臣および全エジプトが起き上がった。そして、エジプトには激しい泣き叫びが起こった。それは死人のない家になかったからである。

12:31 パロはその夜、モーセとアロンを呼び寄せて言った。「おまえたちもイスラエル人も立ち上がって、私の民の中から出て行け。おまえたちが言うとおりに、行って、【主】に仕えよ。」

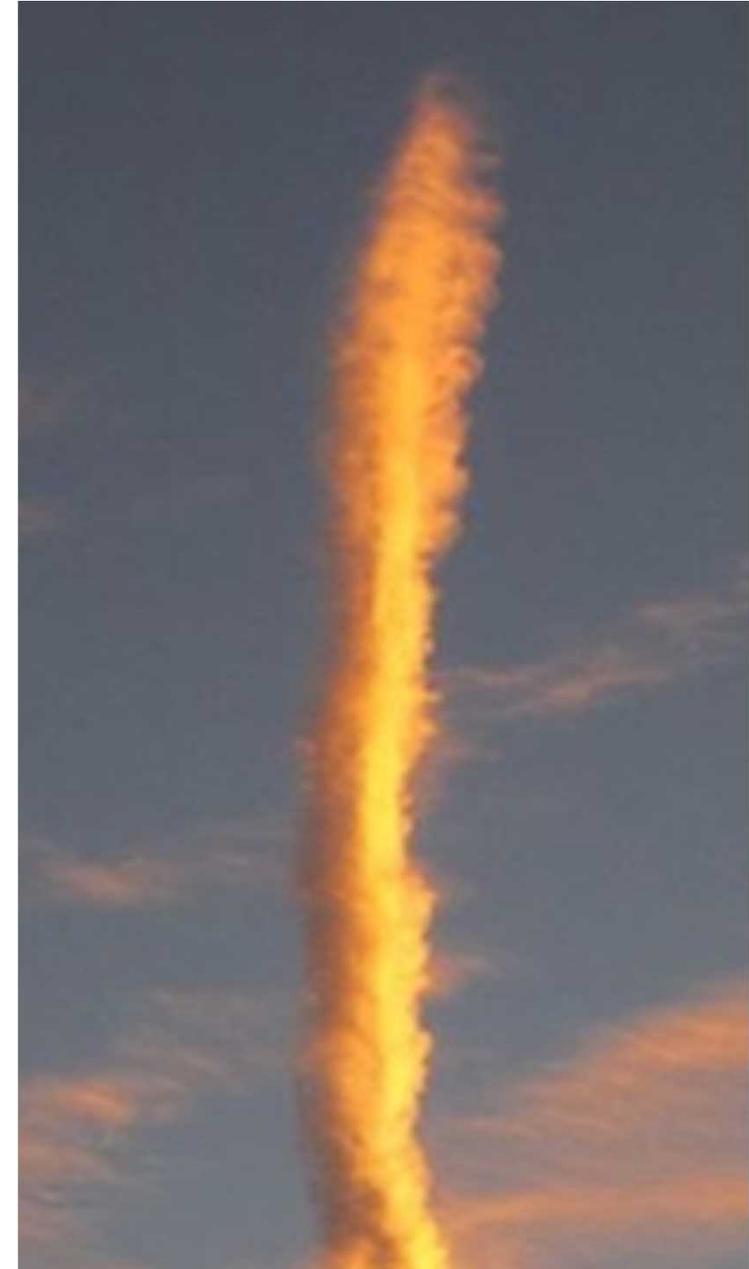




V. エジプト脱出 **背後に迫る影**

【エジプト脱出】 出12:37~38

- ついにエジプトを脱出したイスラエル。
青年男子だけで60万人。
200万人以上の大所帯だった。
- モーセは、ヨセフの遺骸を携えてきた。
400年前のヨセフの命令に従ったのだ。
- 昼は雲の柱、夜は火の柱。神の栄光(シャカイナグローリー)が民を導いた。
栄光の雲の中におられた、主の使い、
→ 受肉前のメシアが、イスラエルを導いた。



【エジプト脱出の経路】 出13:17～18

さて、パロがこの民を行かせたとき、神は、彼らを近道であるペリシテ人*の国の道には導かれなかった。...「民が戦いを見て、心が変わり、エジプトに引き返すといけない。」それで神はこの民を葦の海に沿う荒野の道に回らせた。

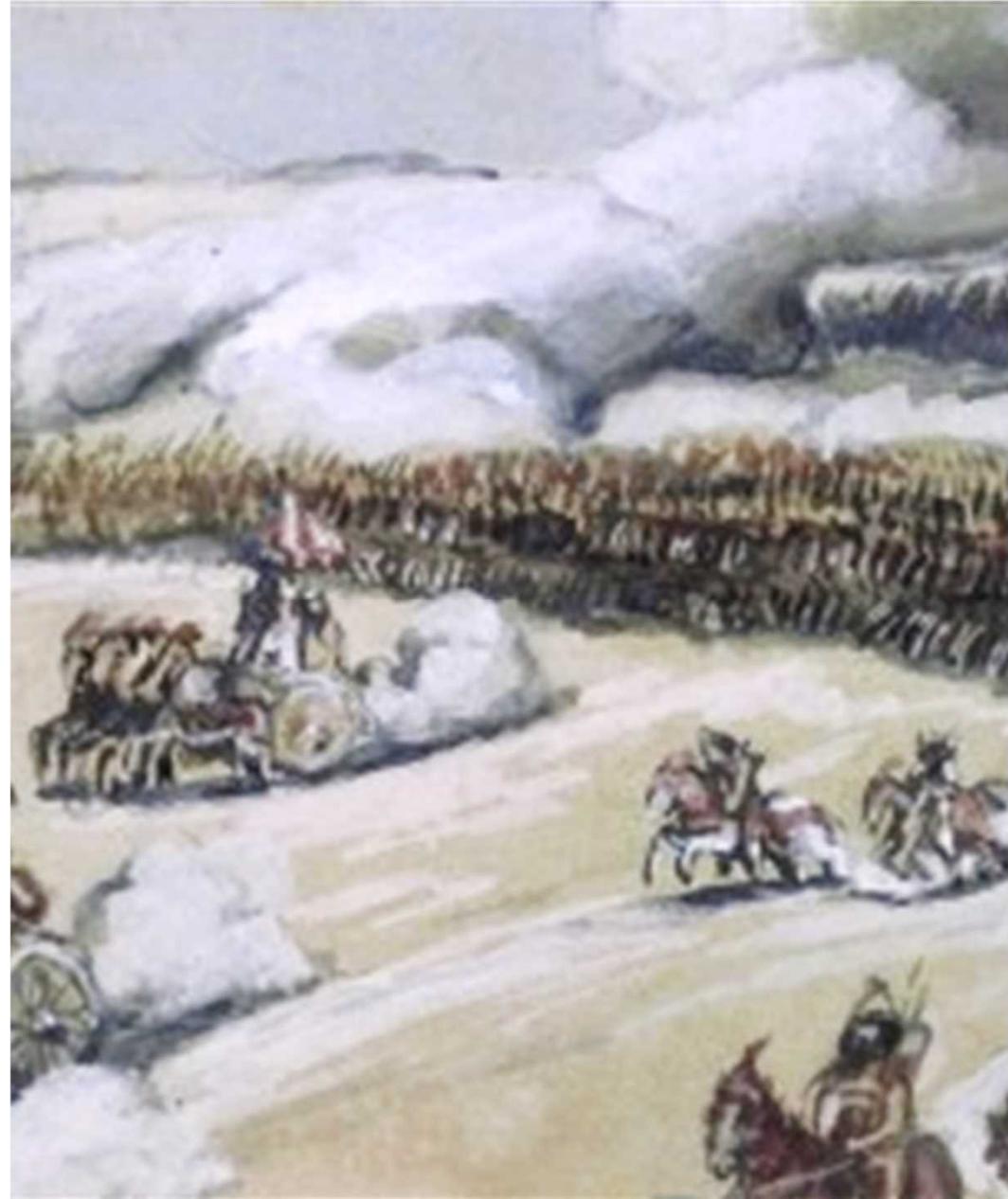
- * ペリシテ人 ...地中海沿いの強力な勢力。
後に、イスラエルを苦しめた。
- 海沿いの道なら、イスラエルまでは約10日。
イスラエルがペリシテ人を恐れて、心変わりしないように、主は南下するルートをとらせた。



【民のつぶやき】 出14:11

- 心変わりしたパロは、世界最強の戦車部隊で追いかけてきた。
- 背後からエジプト軍が迫る中、イスラエルの民はつぶやいた。

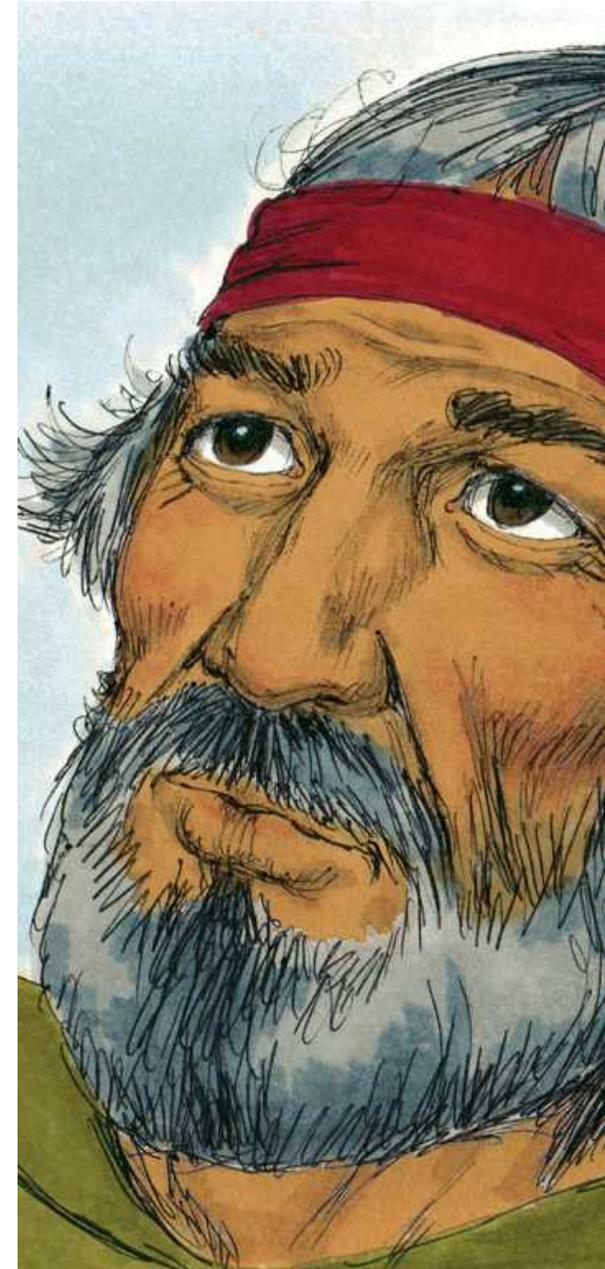
「エジプトには墓がないので、あなたは私たちを連れて来て、この荒野で、死なせるのですか。私たちをエジプトから連れ出したりして、いったい何ということを私たちにしてくれたのです。」



【主の命令】 出14:15～16

【主】はモーセに仰せられた。「なぜあなたはわたしに向かって叫ぶのか。イスラエル人に前進するように言え。あなたは、あなたの杖を上げ、あなたの手を海の上に差し伸ばし、海を分けて、イスラエル人が海の真ん中のかわいた地を進み行くようにせよ。」

- このとき、モーセがなすべきは、“民に命じること。”
- 主の命令と出来事の順番は、
“前進せよ” → “海が分かれる”
“海が分かれた” → “前進せよ” ではない!!
- 行きなさいと命じられ、歩みだす時、道は拓かれる。



【分かれた海】 出14:21～

そのとき、モーセが手を海の上に差し伸ばすと、【主】は一晩中強い東風で海を退かせ、海を陸地とされた。それで水は分かれた。

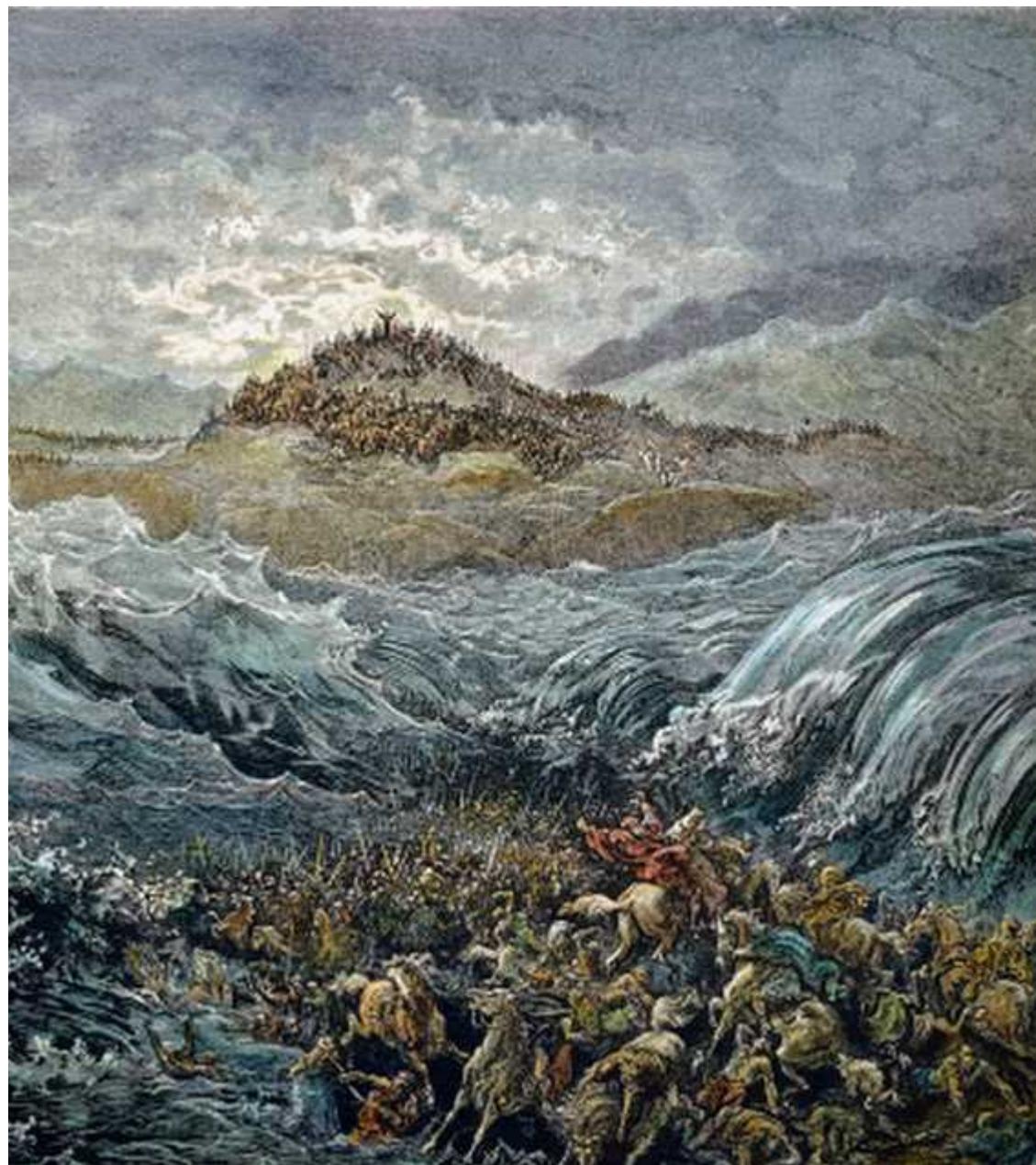
そこで、イスラエル人は海の真ん中のかわいた地を、進んで行った。水は彼らのために右と左で壁となった。



【主の裁き】 出14:27～28 p121

14:27 モーセが手を海の上に差し伸べたとき、夜明け前に、海がもとの状態に戻った。エジプト人は水が迫って来るので逃げたが、【主】はエジプト人を海の真ん中に投げ込まれた。

14:28 水はもとに戻り、あとを追って海に入ったパロの全軍勢の戦車と騎兵をおおった。残された者はひとりもいなかった。





MOVIECLIPS.COM

VI. 私たちの出エジプト

信じて踏み出すのが信仰



【モーセの召命】

- 80歳。40年の荒野生活の末に....
イスラエル解放の使命感も熱意も喪失。

「わたしはいったい何者なのでしょう」

「ああ主よ。

わたしはことばの人ではありません」

「ああ主よ。

どうか他の人を遣わしてください」

➡モーセはとことん、神の命令に抵抗した。



【イスラエルの神の選びの理由】 申命記7:7～10

7:7 【主】があなたがたを恋い慕って、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたがどの民よりも数が多かったからではない。事実、あなたがたは、すべての国々の民のうちで最も数が少なかった。

7:8 しかし、【主】があなたがたを愛されたから、
また、あなたがたの先祖たちに誓われた誓いを守られたから
【主】は、力強い御手をもってあなたがたを連れ出し、奴隷の家から、エジプトの王パロの手からあなたを贖い出された。

- 神の選びは、神の主権によるもの。 ➡ “神が、選んだ。”
- 神の選びは、神の一方的な恵み。 ➡ “神が、愛した。”
- 神の選びは、神の約束に基づく。 ➡ “神が、約束した。”

【聖書の求める信仰とは？ 海を渡ったモーセに学ぶ】

『なぜあなたはわたしに向かって叫ぶのか』

『イスラエルに前進するように言え』

➡もう祈らなくていい、歩み出しなさい!!

➡海がまだ分かれていない状態で、進み始めた。

■ 分かれてから歩き始めるなら、それはただの確認。

➡ 分かれる前に歩き始めるのが、信仰

■ み言葉を学び、信頼し、実行し、体験し、主を知る!!

救いは、神の一方的な選びから始まる。
あなたは、神に選ばれて、ここにいる。
あなたが、優れていて、雄弁だったからではない。

- 神が、あなたを選んだ。
- 神が、あなたを愛した。
- 神が、あなたに約束された。

「こんなわたしが」というあなたをこそ、神は用いる！
求められるのは、全知全能の神への信頼だけ。

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

- ①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、
- ②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
- ③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

そのあがないのゆえに、わたしは救われました。

どうか今、信仰(しんこう)の次の一歩をあゆませてください。

あなたが招(まね)き、応(こた)えられます。

体験(たいけん)をもって、

さらに、あなたを知(し)ることができますように。

主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」